五省

一、至誠に悖るなかりしか
一、言行に恥ずるなかりしか
一、気力に欠くるなかりしか
一、努力に憾みなかりしか
一、不精に亘るなかりしか

五省会ニュース

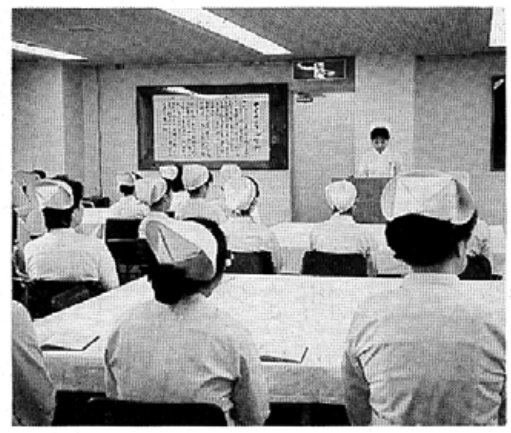
発行所
特定医療法人五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41−2481(代)
発行人　西能 正一郎

ゼネラリストの医師を
地域の〝生〟の声を聞く
医療の原点を再確認

心の通いを大切に

西能病院は、地域の皆さんに親しまれ、信頼される〝心の通い〟を大切にしている。医療、保健、福祉そして予防医学を含めた包括的な総合システムの提供に、全職員が一丸となって努力を重ねている。そして、これからの病院のあり方についてつぎの方針を打ち出している。

（二面に関連記事）



五階ホールの朝礼で、身も心も引き締める

院外活動の活性化

〔垣根を取り除いて生の声を聞く〕まっ先に垣根を取り除いて地域の皆さんと相談をしやすいようにする。そのためには院外に出ていく活動を活性化する。

①地域の皆さんが参加できる機会を作るため、健康教室を継続しておこなう。

②在宅療養は内科的な治療が多いので、内科をパワーアップして地域へ出ていく〝ゆとり〟を構築し、チーム医療を展開する。

③予防医学の啓発に努めるとともに、人間ドックや企業検診、産業医活動を推進する。

これらを通じて、生の声を聞き、これをフィードバックして、さらに地域の中に入っていく。

説明と同意も

〔ゼネラリストとしての医師〕医師は、あらゆる病気からリハビリ、保健、予防と広範囲な相談に対応できるよう、幅広い知識を有したゼネラリストが要求される。地域医療を支えるゼネラリストの医師が必要である。

さらに、医師は患者さんに対し、病状や治療について十分説明し納得を得るインフォームド・コンセント（説明と同意）が大切である。

思いやりの精神を

〔医療の原点を再確認する〕これからも、末ながく地域の皆さんから信頼され、親しまれる病院として存在するためには、医療技術の向上と、思いやりの精神を―。「心の通じる全人間的な治療」を心がけていく。

生命ある限り

西能 正一郎

すでに何度か、この欄に登場したことであるが、私が交通事故で受傷してから早いもので、もう四年の歳月が経過した。怪我をした方を治療する役割である己自身が攻守所を変えて怪我人として治療を受けるということは、非常に貴重な経験をさせていただいた。

このトラブルを、もう少し早く経験していたなら、もっと良い医師になっていたのではなかろうかと思われないこともない。

これらのことについては夫々にすでに述べたが、いささか気がひけて遠慮して言えなかったことを、これから申し述べさせていただきたい。

私は頭から脚まで身体中バラバラになって、それこそ瀕死の重傷を負った。後日かなり頭がはっきりしてから振り返ってみると、助かる可能性は10%もなく恐らく6〜7%位だったのかなと推測される。今でも自分の入る池が、ぽっかり口を開けているのを眺めたことを、はっきり思い出されるのである。

このように死と紙一重の所まで行っても、なお生きて戻って来たのは一体何であったろうか。これを治療に専念して下さった主治医始め、医療チームの皆様方、そして看病に全精力を打込んでくれた人達のお陰と結べば、それなりの文章として収まるのではある。が、私にはどうしてもそれだけとは思えないのである。

私も今日まで人の命にかかわりあいのある仕事をして来た。自分の全力全能を注ぎ込んでも助かってくれる人と、逆立ちしても、どうしても救い得ない人とがあるということである。

何か人為を超えた見えない力によって、助かる人と助からない人と振り分けられているように思われてならない。私の場合も又、助かる方に振り分けられていたからこそ、先生方のお力が効を奏したのではないかと思われるのである。

事故の後かなりの時間を置いて、主治医として助けていただいた外科の先生とお逢いする機会に恵まれた。私の助かった原因について先生の申されたのは、「怪我をした時間が良かったのですよ。日曜の朝ですからもう十五分も遅くて病院に来られたら、みんなゴルフにでも行って居なかったでしょうから」と。

このように考えると、私のように死ぬべくして生きているものと、生きるべくして死を迎えねばならないものと、それを知らないのは本人と周囲の人達ばかり。明日にも来るかも知れない死を迎えるまで、生命ある限り生きている意味のある毎日を送りたいものである。

意味のある毎日を送りたい
紙一重の見えない力の中で

新人の抱負

早く職場に溶け込み

子育のためしばらく臨床を離れていたので真新しい事もあり、早く職場に溶け込み、よりよい人間関係を作っていきたいと思います。

（看護部　岡田むつ子）

明るく、楽しく

明るいスタッフに囲まれて、今楽しく働いています。分からないことも多いので迷惑をかけていると思いますが宜しくお願いします。

（看護部　黒田稚美）

愛情をもって

産後、楽をしていたので正直いって少々きついです。でも大好きな看護の仕事です。愛情をもって患者さんに接していきたいです。

（看護部　稲垣景子）

投稿のお願い

患者さんや地域の皆さんの「声」をお寄せ下さい。医療・保健・福祉・予防医学をはじめどんなことでも結構です。よろしくお願いします。

物心両面の支援協力を
海上自衛隊から西能理事長に感謝状

西能理事長が、自衛隊記念日の十一月一日、海上自衛隊舞鶴地方総監、古澤忠彦海将から感謝状を受賞した。

わが国の防衛と海上自衛隊の任務に深い理解を示し、周辺地域における防衛基盤の育成に尽力した。

とくに、自衛艦の寄港に際しては、物心両面にわたる支援協力を通じて、隊員の志気の高揚及び艦艇広報の推進に大きく貢献したというもの。

あすなろ

「ぽけたらぽけたで仕方ない、と思ってます。死ぬ時まで、優等生でいなくてもいいじゃないかと思い始めているんです」といっているのは、今年七十六歳の評論家、吉沢久子さんだ▼「自分らしく生きられる間は一生懸命生きて、あとは野となれ山となれですよ。だって、ぽけた後は自分じゃ、よくわからないんだから、どうしようもないじゃないですか」と完全に開き直っている。なるほど、おっしゃる通りだ。それも一つの割り切り方、考え方だろう▼考え方、生き方といえばアメリカのレーガン元大統領が初期のアルツハイマー病だと告白し、その勇気が波紋を広げている。「だれでも直面する可能性があるのだから公表したから偉いとは思わない」という人もいる▼しかし、介護の苦労への公的援助が立ち遅れている現在、病名の公表は確かに社会の関心を高める役を果たし、特効薬や治療法の開発にもはずみがつくに違いない。同じ痴ほう症でも、脳血管障害による場合はある程度まで予防、治療が可能で、その点、アルツハイマー型は厄介だ▼先日、アメリカで、目薬式に目に薬をたらすだけでアルツハイマーを診断する簡易判定法がみつかったという。いろいろ科学的分析が進めば治療法発見にもつながってくる。それまではともかく、懸命に生きるだけ生きて、あとは吉沢式に開き直るとするか…。

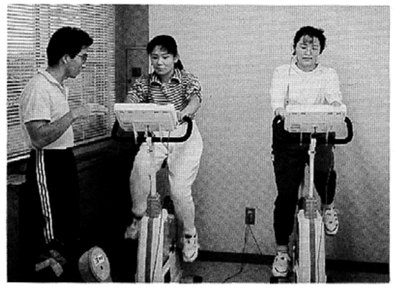
地域とともに ④

地域の皆さんの〝健康〟と取り組んでいる健康事業部は、現在、体力測定室と人間ドックに力を入れている。来年から健康教室や訪問看護などの充実を考えている。仙田副部長は「皆さんのご希望、ご意見を賜わり、お応えに努めたい」といっている。次は課題の現状と方針である。

〝健康〟に取り組む

一般の人たちも気軽に活用を

体力測定　11月、人間ドックから17人



体力測定風景

〔体力測定室〕十一月一日から本格的にスタート、同月に人間ドックを受診した二十一人のうち希望者十七人が利用した。同日から職員が測定をはじめた。

スポーツ外来（西能　弦、八島省吾両スポーツドクター担当）の特徴を生かして、スポーツ選手の体力向上、スポーツ障害予防に活用する。

また、企業健診の中にも取り入れ、一般の人たちや主婦の方々にも気軽に活用できるよう呼びかけ、体力への関心を高めることにしている。

体力測定日は毎週火・木の午後一時半から同五時半まで。料金は一般二千円、生徒（高校生以下）千五百円。

予約制で、病院一階受付か健康事業部まで申し込んでほしい。団体予約の場合は、日時及び送迎の相談にも応じる。

検診項目の充実を

〔人間ドック〕

昨年四月からスタートしたばかりだが、専門医（田村・川浦両医師）による検診が受診者から大変好評を得ている。さらにリラックスできる空間、明日への活力の増進などを加味した体制の整備を急いでいる。

今後の対応としては地域のみなさんや職場で働く人々へのPRにあわせて検診項目の充実、設備への配慮を考えている。

イベントにも参加して

〔健康教室〕いろんな課題（予防と健康維持）を登場させたい。とくに成人病予防に関するもの、老人医療の問題である。

地域のイベントにも参加し、血圧測定や栄養相談、尿検査などで教室の意義を、みなさんに理解していただく。今、健康教室に対し、地域のみなさんが何を望み、何を期待しておられるかを聞いてつぎの開催に向かって計画を進めていくこと。

退院患者さんを中心に

〔訪問看護など〕

訪問看護（診療）や入浴サービスなど、家族の協力を得ながら進めている。さらに退院患者さんを中心に活動を広げ、その意識を高めていく。

矢後さんと、菊香る二階ナースセンターの窓口

季節の香りを

生花で患者さんを慰める

病院の待合室、受付やデイルームなど、あちこちの生花が患者さんを慰めている。見舞客や職員の心づかいである。

看護助手の矢後寛子さんも、自宅の庭で育てた四季折々の花を職場で生けている。現在は二階ナースセンター所属で、二階の三カ所の花器に、一週間に一回ぐらいの割合いで、勤めてから六年、ずっと続けている。

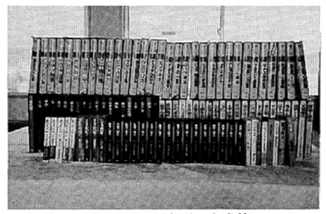
ススキなど野の草花や、ビワ、柿などの季節の香りも届けている。常願寺川の川原までグミをとりにいってきたこともある。

花好きな患者さんたちは「季節感がつたわってきて、はればれする」と、〝花談義〟にひとときを過している。

「矢後さんは、ちょっとでも患者さんの安らぎになればと思って続けています。家中で花を育てていますが、私は野の花が好きです」と語っている。

蔵書やく二百冊を寄贈

～一人でも多くの人に～



石黒さんが寄贈した書籍

栄養部の石黒芳美さんは、このほど蔵書やく二百冊を病院に寄贈した。全集ものが多く、「世界の歴史」「日本歴史シリーズ」「野草図鑑」「高原と高山の植物」「ライフ大自然シリーズ」「少年少女世界の名作」「司馬遼史記」など。

石黒さんは「一人でも多くの人に読んでもらいたいという気持ちからです」といっている。

病院では、五階和室と、二階本だなに陳列し、貸し出しもして広い利用を呼びかけている。

自然は文明と心の鏡 ⑥

日本画家　日展会員
富山県美術連合会会長
大島　秀信氏

いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ

自然は心の鏡であり、自然を描くことは自分自身と対応すること――と、常に真摯に文明社会と人間を見つめる大島画伯。

幼い頃の思い出から始まった対談の最終回は、両者の興味深い人生観で盛り上る。

若さの秘訣

今日あるのは師のお蔭

大島　先生の師弟関係はどんなふうでしたか。

西能　実は最近、私が四十年間師事してきた先生が亡くなられたんです。手ほどきを受けたのは七年間ほどでそれから後は、教えてもらったことが基本になって、自分で手術の方針を編み出し、ここまで来たわけです。

自分の力だと思ったことはなく、先生のおかげで今の病院があるんだと思って、ずっと師事してきたんです。

大島　僕も同じだなあ。先生が仕えられたのは、古いタイプの先生だったんですか。

西能　古い。古い時代の偉い先生だったんですわ。（笑）亡くなられた時、これで済んだかと思うくらい仕えました。他の弟子達は皆いうことですね。

大島　描き手の心の問題が一番大事です。社会のすべてに心の視野を広げて見ると、明解に返ってくる。テクニックだけだと、返ってくるものがない。

先生の場合も、技術抜群の名医だと言われてきておられますが、交通事故でケガされてからは、技術だけではだめだと思われたと言われましたよね。

西能　ケガするのがちょっと遅すぎましたなあ。（笑）

気持ちの持ち方で老化は防げる

大島　ところで、気になっていることがあるんですよ。長生きできるのか、亡くなったら生まれかわるのか、死んだらどこへ行くのかなどです。医学的に聞いてみるんですが、老化を遅らすことはできるもんですか。

西能　僕は四十年間もずっと腰のレントゲン写真を見てきているので、この頃ではフィルムを見るだけで、男か女か、いくつぐらいかがわかるんです。

ところがたまに、フィルムでは五十歳ほどだと思うのに、七十歳くらいの人だったりするんです。

大島　ほう、たまにですか。

西能　年に数人ですがね。いったいこれはどうなってるのか。カルテは七十歳なんだが腰の骨だけでなく、顔も五十歳なんです。なぜだろうと。

きちんと研究をするつもりではいますが、私は色気だと思う。ほかの人に見られていると思って生きている人と、そうでない人との差ではないかと思います。七十歳になっても、外へ出る時はクシで髪の毛をなでつけようかという人が若いんじゃないかと思う。

大島　なるほど、それは気持ちの持ち方ということですか。

西能　そうです。気持ちの持ち方によってホルモンの分泌量が違ってきます。

大島　なるほどね。

西能　体もよく動かくだけだと。

西能　それは素晴らしい。

大島　医学の場合は患者さん個人個人に対応しなければならないので難しいけど、絵は自分自身だけに対応すればいいわけです。

西能　心の持ち方ということですね。

大島　描き手の心の問題が一番大事です。社会のすべてに心の視野を広げて見ると、明解に返ってくる。テクニックだけだと、返ってくるものがない。

先生の場合も、技術抜群の名医だと言われてきておられますが、交通事故でケガされてからは、技術だけではだめだと思われたと言われましたよね。

西能　ケガするのがちょっと遅すぎましたなあ。（笑）

気持ちの持ち方で老化は防げる

大島　ところで、気になっていることがあるんですよ。長生きできるのか、亡くなったら生まれかわるのか、死んだらどこへ行くのかなどです。医学的に聞いてみるんですが、老化を遅らすことはできるもんですか。

西能　僕は四十年間もずっと腰のレントゲン写真を見てきているので、この頃ではフィルムを見るだけで、男か女か、いくつぐらいかがわかるんです。

ところがたまに、フィルムでは五十歳ほどだと思うのに、七十歳くらいの人だったりするんです。

大島　ほう、たまにですか。

西能　年に数人ですがね。いったいこれはどうなってるのか。カルテは七十歳なんだが腰の骨だけでなく、顔も五十歳なんです。なぜだろうと。

きちんと研究をするつもりではいますが、私は色気だと思う。ほかの人に見られていると思って生きている人と、そうでない人との差ではないかと思います。七十歳になっても、外へ出る時はクシで髪の毛をなでつけようかという人が若いんじゃないかと思う。

大島　なるほど、それは気持ちの持ち方ということですか。

西能　そうです。気持ちの持ち方によってホルモンの分泌量が違ってきます。

大島　なるほどね。

西能　体もよく動かすから、そういう

声

明るい生活と、自力意欲を

梨雲苑におけるPT指導

入苑者や職員に適切な助言

―「先生、来られましたけ！」と荒井課長に挨拶されるお年寄り。声が弾んでいます。「元気だったけ！」と先生も気軽に応じて下さいます。

第二金曜日の午後、ホームは期待と、おだやかな緊張感が漂っています。西能病院リハビリテーションのPTの先生方四人が交替で梨雲苑に指導に来てくださる日です。

荒井課長から〝車椅子〟の指導をうける寮母たち

平成三年、特別養護老人ホーム梨雲苑（西能正一郎理事長）が設立された時以来のおつき合いです。平均年齢82才という高齢の方々には、片マヒ、機能低下から様々な障害が生活をする上で影響を与えています。

早々と他力にまかせてしまう方、可能性を追求される方、障害に対しても様々な反応がみられます。

PTの先生方は、状態をみながら、ご本人がどうされたらよいか、そして職員（介護者）はどう援助したらよいかを、理学療法的立場から助言して下さいます。

先生の前に立つと、椅子移動も驚くくらいスムーズにされる方もみられ、歓声があがります。

この雰囲気いいので、食事額はこれを念頭に日々の生活が明るく、自力意欲に結びつくよう機会に、より満足のいく食事の提供につとめていくことにしている。

その一つとして、月に六回実施していた選択メニュー（写真）を、十月から十二回にふやした。肉、魚、煮しめなど三品から一品を選んでもらう仕組み。

三度の食事を楽しみにしている患者さんたちは「自分の好きなものが食べられるなんて、ありがたいことだ」と喜こんでいる。

また、近く食器やトレーを順次、新品に取り換えて、新鮮な雰囲気をつくることにしている。

これからの対応については、次のようなことを検討している。

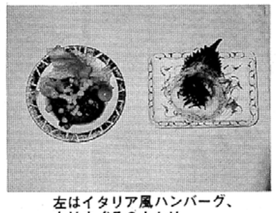
患者さんの入院後二～三日中にベッド訪問し、食事内容を説明し、要望を聞く。

一カ月に一度ぐらいバイキングサービスを行う。これは給食のほかに野菜、サラダ、季節の果物などの一品を大盛りで出す趣向。

患者さんの入院時に病院独自のはしをプレゼントし、入院中は、そのはしで食事をし、退院のとき持ち帰ってもらう。

このように、患者さんの要望を取り入れるため、できるだけ多くの時間をかけてベッドサイドを訪問する。

そして、給食料の一部負担を理解してもらう事にしている。



左はイタリア風ハンバーグ、右はまぐろの山かけ

より満足のいく食事を

選択メニューを倍増

バイキングサービスも検討

入院患者さんの一日当たりの給食料千九百円は据え置きで、うち六百円が自己負担（十月一日から）になった。病院の収入にはならないので、食事額はこれまでどおりである。

栄養部では、これをきびしくつくよう、新品に取り換えて、新鮮な雰囲気をつくることにしている。

これからの対応については、次のようなことを検討している。

患者さんの入院後二～三日中にベッド訪問し、食事内容を説明し、要望を聞く。

一カ月に一度ぐらいバイキングサービスを行う。これは給食のほかに野菜、サラダ、季節の果物などの一品を大盛りで出す趣向。

患者さんの入院時に病院独自のはしをプレゼントし、入院中は、そのはしで食事をし、退院のとき持ち帰ってもらう。

このように、患者さんの要望を取り入れるため、できるだけ多くの時間をかけてベッドサイドを訪問する。

そして、給食料の一部負担を理解してもらう事にしている。

糖尿病スクール

受講者は良好な血糖値を

短い期間で最大限の効果

西能病院は四月から一週間コースの「糖尿病スクール」（日曜入学―土曜卒業）を開校したが、同スクール担当の高田良久医長は「糖尿病克服一週間計画」について次のように語っている。

―「三時間待ちの三分診療」といわれるように、病院の診療体制が社会問題となっています。予約制の導入等の工夫もなされていますが、一人の患者さんに十分な診療時間をとるのはまだ難しいのが現状です。しかしそれでは糖尿病の治療はうまくいきません。

当院が糖尿病スクールを開設したのは、今の診療体制の下で最大限の効果を上げる糖尿病診療を模索するためです。できるだけ短い期間に糖尿病状態を評価し、治療の継続に必要な情報を提供します。

検査結果を受講者に説明する高田医長

お仕事や家庭の事情で何度も来院したり、長く入院できない方でも、一週間だけ時間をいただき、この中で「食事について」三回、「糖尿病という病気について」二回、「糖尿病治療薬について」「日常生活について」各一回、それぞれ一時間づつ、計七時間みっちりと話を聴いていただき、よりよい糖尿病治療の実現を目指します。

これまで二十五名の方が受講されましたが、「自分の糖尿病認識の甘さを痛感した」「食事に気をつけられ、と言われてきたが、やっとその意味と方法がわかった」等の感想をお寄せいただき、担当者一同喜んでおります。

受講された方々はその後、外来でもほぼ全員の方が良好な血糖値を維持されているようです。検診等で尿糖が指摘されながらなかなか治療に踏み切れない方、受診しながら効果が上がらない方、是非一週間だけ時間をつくられて糖尿病スクールに御入講下さい。

十二月からの入校日

△十二月＝十二日△一月＝八日、二十二日。

申し込みは内科外来迄。

色気こそ

西能正一郎対談シリーズ

いまを生きる

「道徳的に悪いことでも、人間が素直になったということでは正しいと言っていい」と大島氏

その弁当箱をちゃんと家まで持って帰れるかわからんぞ。であればこそ、今ある命を大事に使わなきゃいかん。明日はないかもしれない命なのだから、後悔せんように今日の分は使いましょ、というのが私の人生観なんです。

こうやって生かされていても、助かってありがたいとは思わない。（笑）たまたま、まだ寿命があっただけ。

人間が素直に生きていくと…

大島　先生は宗教をどうお考えですか。

西能　実は宗教は何もない。家は浄土真宗だけど、良いことをしたら良いめにあい、悪いことをしたらバチがあたるということも思わない。ただ、自分がかわいそうだから、おのれの命をちゃんと生かしていくべきだということだけですね。

大島　僕は宗教観がないというとないし、あるといえばあるかと言うところです。

たまにバチあたりの言葉を使うことがあるんです。神さんは悪いやつだと。

どういうことかというと、たとえば不倫をしたとする。人間社会の倫理道徳にあてはめると悪いことだが、人を好きになるということは人間が素直になったということで、それは正しいと言ってもいい。それが正しくないのなら、そういう人間をつくった神が悪いんだと。（笑）

西能　目に見えない大きな力は信じているんですか。

大島　それがわからない。人間は自然の中で生まれてそこで死ぬ。自然の一部です。自分の意識外でおきる行いは、神のなせるわざ。

西能　自然は挑戦するものじゃないわけですね。

大島　そう、自然の中にいるから受け入れるしかない。ところが社会では、自然に生きていると受け入れられないことが多い。そんな時にいうんですよ、こんな人間をつくった神が悪いと。（笑）人間っていうのは、どうにもならない自然物じゃないかと思いますね。

西能　先生の作品がそういう思想の中から出てくるのだと、初めてわかりました。（笑）

芸術、教育、宗教論などいろんなお話ができて、本当に楽しかったです。どうもありがとうございました。

（終り）

より活性化を

第五回院内研究発表会から

「腰痛手術患者の退院後成績」リハビリテーション四人、発表者、森田忠秀

無理な負担をかけない生活を

腰痛手術患者の退院後成績

さらに良くなっていたが55%

腰痛症は日常頻繁にみられる疾患であり、その治療には保存的療法及び観血的療法（手術）が行われる。

リハビリテーションでは、物理療法（ホットパックや間歇牽引など）と、運動療法（腰痛体操の指導など）を行っている。

また手術を行う患者さんの評価を日本整形外科学会の評価表を使って、手術前と手術後に、それぞれ行い、経過を観察している。

今回は、腰痛手術後の患者さんの退院後成績を把握するため、以前に腰痛評価を行ったことのある患者さん四十四人に来院して頂き、腰痛評価を行ったのでその結果の一部を述べる。

打合せスタッフ。右が森田さん

来院して頂いた四十四人は、男性三十二人、女性十二人で、平均年齢は五十二・四歳。退院後の経過期間は半年から二年半であった。

まず四十四人のうち手術前の状態より悪くなっていた方は全くみられなかった。

次に退院時の成績と比較すると、退院時より、さらに良くなっていた方が二十四人（55%）変わらない方は十五人（34%）、悪くなった方が五人（11%）みられた。

良好な成績を維持している方は、退院後一年以内と、五十歳以上が多かった。

一方、悪くなった方をみると、退院後一年以上経過しており、特に三十～四十歳代の仕事をもつ方に徐々に腰痛が出現してきていることが分かった。

これらから、手術後半年から一年以内は、ほとんど良い成績である。この成績をさらに維持するためには、腰痛体操（腹筋強化と腰殿筋のストレッチ）を行うことと、いつも姿勢に気をつけて腰に無理な負担がかからないよう生活する（特に仕事をしている時）ことが大事である。

今回の調査では、一割程度の方が退院時よりも成績が悪くなっていたが、手術前の成績よりはすべて良好な成績であった。

満足度では95%

手術に対する満足度でも95%の方が良かったと答えている。この成績を維持できるようそれぞれが気をつけて生活していけば、腰痛再発はある程度予防できると考える。

心を入れかえて勉強

スタッフの熱心な姿に

リハビリ臨床実習

平成医療専門学院（岐阜市）理学療法学科三年、坂大聖子さんは、このほど七週間にわたり、リハビリテーションで臨床実習を受けた。次はその感想文である。

―初めは、不安と緊張でいっぱいでした。しかしスタッフの方々の、とてもやさしい対応で取り除かれ、期待を胸に臨床実習を開始しました。

慣れない手つきで患者さんに接し、わからないことや疑問に思うことがたくさんあり、期待とは反対に困り果ててしまいました。そんな私を先生方は適切にアドバイスして助けてくれました。

ようやく、ゆとりを持って患者さんに接することができるようになったので、一望したところ、先生方が患者さんに対し、とても熱心にリハビリ指導をされている姿が目にはいりました。

私はその事について質問したところ、「患者さんの要望に答え、社会の中で安心して健康に暮していけるよう指導しているのです」という言葉でした。

私はまだ未熟のためそのようなことはとても難しいと思いましたが、それから心を入れかえました。先生方の行動や患者さんに対するコミュニケーション、リハビリ指導など、一つ一つ勉強しました。

まだまだ勉強不足な私ですが、先生方から学んだこと、患者さんから学んだことを身につけ、理学療法士を目指してがんばっていこうと思っています―。

病院だより

十月

一日＝坂倉看護部長が富山市医師会の看護の管理者研修会で「患者の目はナースに」などについて講演。

献血に協力

入院患者さんの家族も

六日＝職員四十三人、来院中の入院患者さんの家族ら八人、合計五十一人が、病院玄関前の愛の献血車（県赤十字血液センター）で献血した。（写真は献血に協力の家族）

八日＝県総合体育センターの県民スポーツ大学エアロビクス（県教育委員会体育課担当）に救護班。

八日～九日、二十二日～二十三日、二十九日～三十日＝職員旅行会が三班に分けて和倉温泉と能登島へ。

十六日＝西能理事長が上市町北アルプス文化センター（同町老人クラブ連合会主催）で「高齢者の生きがい」を講演。

二十日～二十一日＝日本医薬品工業の社員が治験に基づく健康診断の一回目。あと二回受けた。

二十四日～二十七日＝五階ホールなどで職員の定期健康診断。

十一月

スポーツ障害について

西能院長が講演

一日＝西能院長が入善中学校で「スポーツ障害の予防と治療」を講演。

一日、二日、四日＝かたかご保育園職員が健康診断。

二十二日＝西能理事長が庄川町庄川荘（全労済富山主催）で「腰痛について」を講演。

十二月

十七日＝恒例忘年会を名鉄トヤマホテルで。

診療体制のご案内

休日診療

（日曜日・祝日）

午前8時30分～午後5時

- 整形外科
- 内科
- リハビリテーション科

平日診療

（月曜日～土曜日）

通院バスのご案内

月曜～土曜　午前運行（日曜、祝日は休み）

○印は常時停留所、その他、臨時停車します。

①富山駅・西町コース：丸の内→西能病院→富山大橋→丸の内→新富町→桜橋通り→富山駅→西町→総曲輪町

②婦中・長沢・金屋方面：金屋→西能病院→神明→羽根→越中島→蓮見駅→古里郵便局→平岡→友坂口

③呉羽・中老田・北代・田刈屋方面：畑中→西能病院→吉作→花ノ木→中老田→女子短大→呉羽駅→北代→石坂

- 整形外科　午前 8：30～12：00　午後 4：00～7：00
- スポーツ外来　水・土曜日　午後 4：00～7：00
- 人間ドック　日帰りコース・1泊2日コース（水・金曜日）　（火・木・金曜日）　2泊3日コース・3泊4日コース　〈申込先〉健康事業部　8：30～17：30
- 内科　午前 8：30～12：00　午後 3：00～5：00（火・金曜日は7：00）
- 糖尿病外来　火・金曜日　午前 9：00～12：00
- 泌尿器科外来　土曜日　午後 1：30～5：00
- 在宅看護・診療　木・金曜日　午後 1：30～4：00
- リハビリテーション科　午前 8：30～12：00　午後 1：30～7：00
- 循環器外来　金曜日　午後 1：30～3：30
- 神経内科外来　木曜日　午後 2：00～5：00
- 栄養指導　月曜日～土曜日　午前 10：00～11：00　糖尿病　ウエイト・コントロール